

教科書調査研究の観点

発行者番号・略号	教科書名	記号・番号
9 開隆堂	ORAL COMMUNICATION Revised EXPRESSWAYS I Advanced Edition	オI 022

1 内容

- ◎ 生徒の興味と関心を高め学習意欲を喚起するように、身近な題材が精選されている。
- ◎ 「聞く・話す」ための場面や目的に応じた多彩な口語表現が学習できるよう、問題が工夫されている。
- ◎ 学習の中核となる対話文は、全課を通して主要な登場人物（日本人とオーストラリア人）が設定され、また、舞台は日本とオーストラリアにまたがり、リアリティのある生き生きとした会話が展開されている。
- ◎ イラストや写真を利用する言語活動の場面が数多く取り入れられ、ダイナミックな授業展開が可能となる。
- ◎ ペア・ワークやグループ・ワークの活動形態が設定され、生徒自らの考えによる発話が促されるよう工夫されている。
- ◎ 英語によるサッカーのラジオ中継（L. 17）を教材にした聞き取り、浦島太郎のあらすじをたどるイラストをもとに英語劇化するタスク（L. 15）など、オーセンティックで生徒の創造性を育む内容が盛り込まれている。
- ◎ リスニングの力を向上させ、大学入試などのリスニング・テストの対策ともなる、見開きページ（Listening Review）が3箇所設置されている。

2 分量・構成

- ◎ 全体は20課、各課は見開き単位の4頁で構成され、オーラルIの標準単位数は2であることから、見開き単位の頁構成は年間指導計画作成上、都合がよい。
- ◎ 課の中核となる対話文（DIALOG）は各課14～15行で構成され、8課までは日本を舞台に、9課から20課までは生徒にとって身近な国となっているオーストラリアを舞台に展開し、多彩な口語表現を学習できる。
- ◎ 8課と9課の間に、航空機内や空港内を想定したコミュニケーションを練習する見開きページ（Take Off to Sydney）が置かれ、場面設定の転換が明確化されている。
- ◎ 各課はSTARTER（聞き取り準備）→DIALOG（対話文で学習事項確認）→Check for Understanding（質問文の聞き取り、対話文の内容理解）→LISTENING PRACTICE（聞く）→SPEAKING PRACTICE（話す）→COMMUNICATION TASK（グループ、ペアで対話、発表）と、システムティックに構成されており、効果的な授業が行えるよう工夫されている。

3 表現・表記・使用上の便宜

- ◎ 指示文を含めすべて英語で示されており、生徒が英語にさらされる機会を増加させるべく配慮がなされている。また、ALTとのティーム・ティーチングにも適している。
- ◎ 大判（B5判）の利点を活かし、ゆとりある紙面構成となっている。
- ◎ 全頁4色刷りで、イラストや写真がふんだんに配され、楽しく学習できるよう配慮されている。
- ◎ 活字の大きさは適度で、読みやすい。
- ◎ 各課の冒頭にねらいとなる会話表現が“Phrasal Preview”として明示され、目標が一目瞭然となっているので学習しやすい。
- ◎ COMMUNICATION TASK（1, 2）には、適宜“For Your Information”として例や関連表現が提示されており、目標である「生徒自らの発話」の促進に役立つ。
- ◎ COMMUNICATION TASK 2の指示文の下及び目次に“PRESENTATION” “ROLE-PLAYING” “CONVERSATION” “DRAMA”などのタスクの種類が色分けして明示されており、活動の趣旨を理解しやすい。
- ◎ 問題中のイラスト、写真には適宜、記号や番号がふられており、スムーズな授業進行のための配慮がなされている。
- ◎ 英文を聞いて活動する箇所にはヘッドホンのアイコンが表示されており、その活動の趣旨が明確化されるとともに音声教材利用の際の便宜が図られている。
- ◎ 巻末には課ごとにまとめられた単語・熟語のリスト（For Better Communication）が発音記号付きで掲載されており、語彙力の定着に活用できる。

4 その他

- ◎ 表紙は「人とコミュニケーション」を連想させるイラストを配し、色使いも工夫され、「オーラル・コミュニケーション」という教科への学習意欲を高めるものとなっている。
- ◎ 前見返しには南を上にした地図（DOWN-UNDER MAP）が掲載されており、南半球に位置するオーストラリアの自負を物語って興味深い。また、対話で使われるごく短い英語表現をシチュエーションのわかるイラストとともにまとめた“Short Words Go a Long Way”は学習上大いに活用が期待できる。
- ◎ 後見返しには英語のリズム・イントネーションの解説（Voice Tones Say a Lot）と写真とともにジェスチャーの意味を示した“BODY LANGUAGE”が掲載されており、オーラル・コミュニケーションを実践する上で、大切な事項が網羅されている。